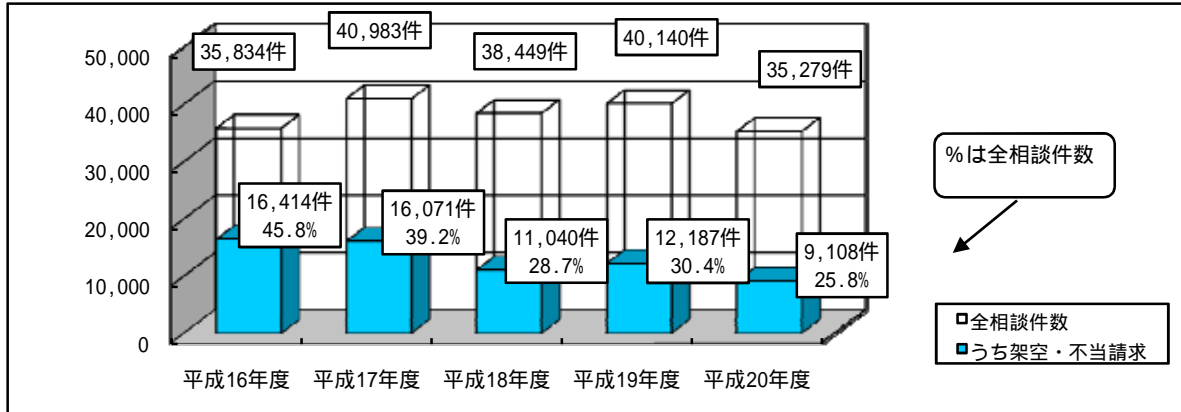


2 主な特徴

(1) 架空・不当請求に関する相談

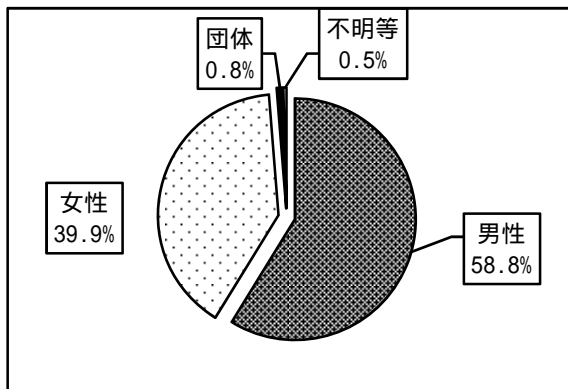
利用した覚えのない有料サイトの利用料金や、商品を特定せず消費料などといった料金の請求、ローンの債権といった名目での請求等、「架空・不当請求」に関する相談は9,108件寄せられ、前年度より3,079件の減となり、1万件を下回った。しかし依然として相談件数全体の4分の1を占めている(図-4)。

【図-4】架空・不当請求の相談件数推移

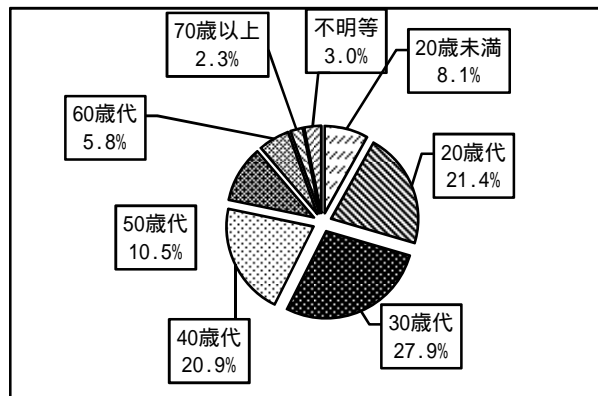


契約当事者の属性では、男性からの相談が6割近くを占めるが、前年度と比較すると女性の割合もわずかに増えている。年代別では30歳代が最も多く、次いで20歳代、40歳代となっている。前年度と比較すると、40歳代、60歳代、70歳以上の相談件数の割合は、増加が目立っている(図-5・6/表-3・4)。

【図-5】架空・不当請求の相談
契約当事者性別割合[n=9,108]



【図-6】架空・不当請求の相談
契約当事者年代別割合[n=9,108]



【表-3】架空・不当請求の相談
契約当事者性別件数前年度比較

	平成20年度	(構成比)	平成19年度	(構成比)
男性	5,354	(58.8%)	7,304	(59.9%)
女性	3,638	(39.9%)	4,739	(38.9%)
団体	77	(0.8%)	100	(0.8%)
不明等	39	(0.5%)	44	(0.4%)
計	9,108	(100.0%)	12,187	(100.0%)

【表-4】架空・不当請求の相談
契約当事者年代別件数前年度比較

	平成20年度	(構成比)	平成19年度	(構成比)
20歳未満	737	(8.1%)	1,073	(8.8%)
20歳代	1,951	(21.4%)	2,860	(23.5%)
30歳代	2,540	(27.9%)	3,390	(27.8%)
40歳代	1,901	(20.9%)	2,410	(19.8%)
50歳代	954	(10.5%)	1,334	(10.9%)
60歳代	528	(5.8%)	533	(4.4%)
70歳以上	209	(2.3%)	221	(1.8%)
不明等	288	(3.2%)	366	(3.0%)
計	9,108	(100.0%)	12,187	(100.0%)